

若菜貞爾 わかざね 戯作者。安政元年上總國長生郡佐坪村生れ、大正七年五月二十五日歿（二八番一五八）。號わかざね、夢穂樓、狐蝶園わかざね、狐蝶園若菜、幻々道人、東風亭半馬、柳橋新史、瀧山人、胡蝶園主人、胡蝶園若菜、若菜園貞爾、若菜、頓陳漢班馬、頓陳館半馬等。假名垣魯文門下、明治十一年「わかざねよみ」、十二年「魁新聞」、のち「わかざねし新聞」等を経て「東京朝日新聞」に創刊から在籍。二十八年退社後は放浪生活、根岸の精神病院で死去。

著書 「月雪花戀路の踏分」全二冊（前編―頓陳漢班馬名・香夢亭主人編・明治十六年四月・二十一日出版、中編―香夢亭主人名・九月二十日、下編―東風亭半馬名・香夢亭主人編・十七年一月春陽堂）、地「鍛

質は會津は「鍛錬は三條」長脇差小鏡利刀」全二冊（内題「性質は會津鍛錬は三條」長脇差小鏡逆

利刀」頓陳館半馬名、前編、後編・明治十六年五月・二十九日出版、

春陽堂）、性質は會津「鍛錬は三條」長脇差小鏡利刀」全二冊（狐蝶園若菜名、前

編、後編・明治十六年六月寶永堂）、假名垣魯文原著 尾張の山に二出雲のお國當

世藝者歌舞妓」（狐蝶園若菜名、編、明治十六年十一月松江堂）、世「遺

帶實驗録」（狐蝶園主人名、魯言迂人合著、綴刻・明治十八年十月十

六日大坂・巖々堂本店）、長脇差小鏡利刀（狐蝶園わかざね名、明

治二十一年一月自由閣）、わかざねと御詠歌（内題「和讃と御詠歌」

胡蝶園若菜名、編、大正十一年十月

二十日）盟堂書店「花柳文庫」）等。

